

## 第3回学校運営協議会議事録

会長	校長	副校長	事務長	総務課長	係

【会議名】 令和6年度 第3回学校運営協議会

【日時】 令和7年2月19日（水） 13:30～14:40

出席者（21名）				
委員	佐藤 幸一	佐々木 修	佐々木修二	山下 欽也
	金澤 辰則	鈴木 悠太	藤枝 昌利	箱石 大樹
	前川 優			
学校側	岩渕 雅明	皆川 和範	熊谷 延也	高橋 栄一
	阿部 恵子	田村 憲介	小竹 光	佐々木 倫郎
	佐々木 卓磨			
その他	屋敷 和佳（東京都市大学）他2名			

### 【協議内容・特記事項】

項目	質疑・意見・確認・決定内容(発言者等)
1 開会のことば（副校長）	
2 校長挨拶（校長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都市大学の屋敷先生においでいただいている。</li> <li>・落ち着いた一年だった。探究活動や部活動、進路で実績を上げることができた。</li> <li>・3月1日の卒業式で、卒業生40名を送り出す。</li> <li>・なんとしても2学級を維持しなければならない。クラス減になると8名の職員が減り、学校にとって大きな衰退につながる。現在、校長、副校長を除いて19名。教職員定数の確保が教育の質の保証につながると考えている。入学希望者が40名を切ると、学級減の対象になってしまう。現在、応募人数41名で岩泉町の中学校の50%、宮古地域から9名という志願状況である。</li> <li>・部活動について、都市部では地域に移行が進んでいるが、地方では学校の部活動の役割が大きい。中学校からの部活動の接続も考えながら高校の部活動の在り方を考えなければいけない。</li> <li>・本日は、様々な角度から皆様のご意見をいただき、地域に貢献する学校にしていきたい。</li> </ul>
3 会長挨拶（佐藤会長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月16日、子供の未来を考える集会で、小学生、中学生、高校生の派遣事業の発表があった。高校生の発表は立派だった。</li> <li>・令和6年度を振り返って、令和7年度につなげるために忌憚のないご意見を頂きたい。</li> </ul>

<p>4 学校概況説明  (1) 今年度の主な学校概況について (副校長、高橋)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年生の気づきプロジェクトで新しい試みを行ってきた。</li> <li>・ 3年生は、順調に進路実現を達成している。</li> <li>・ 部活動は、郷土芸能同好会の高総文祭出場、野球部の合同チームで県内初のベスト8進出など活躍することができた。</li> <li>・ 気づきプロジェクトについて、NOTEで情報を発信している。</li> <li>・ 2年生が、地域に対して働きかけるといって進めている。</li> <li>・ 活動を通して、地域における岩泉高校の意義を高めることができた。</li> <li>・ 今年度の主な活動は、SDGs 演習、キッズキャラバン、気づき発表会、担い手ワークショップ、復興教育、有芸小学校との交流、郷土芸能フェス、ジオラマ防災教室などである。高校だけで課題研究をするのではなく、地域の皆様とともに地域を考えて行きたい。</li> </ul>
<p>(2) 令和6年度各種学校評価アンケートについて (佐々木)</p>	<p>・「学校評価」「授業評価」ともに、肯定的な評価が大変多かった。</p>
<p>意見等</p>	<p>(鈴木悠太)  ・岩泉町は防災の意識が高く、生徒も真剣に取り組んでいる。このような活動を通して、地元の魅力に気づき高校生活を送っているのではないか。</p> <p>(山下欣也)  ・高校生は企業から見たら宝物。地元からは、退職者の3分の1しか補えない。日本も海外から人を連れてこないといけなくなっている。地域そのものがなくならないためにも、魅力を作り、大学に行っても戻ってくるような町にしなければならぬ。</p> <p>(佐々木修二)  ・大学進学して、地元が目看向くことが大切。魅力的な学校には魅力的な先生がいる。先生の個性・魅力を磨いて生徒に近づいていくことが学校の魅力化につながる。</p> <p>(藤枝昌利)  ・郷土芸能フェスを岩泉中学校の生徒と一緒にいった。高校生と中学生と一緒に取り組むことで、高校の魅力を知ることができ、郷土芸能や地域貢献など、岩泉高校で学びたいという生徒も多い。</p> <p>・生徒会執行部がお互いに連携し、岩泉町をよりよくする取り組みを進めたい。</p> <p>(高橋栄一)  ・大学に進学する生徒の多くは、地元に戻って地域に貢献したいと言っている。気づきプロジェクトの効果であると感じている。これらの生徒が戻ってきたとき、元気な岩泉であることが大切だ。</p>
<p>5 協議  (1) 令和6年度学校運営計画の評価について (校長)</p>	<p>重点目標 (ア) (イ) について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習活動が充実し、生徒の授業に対する評価に望ましい結果出ている。特に、1年生から高い評価を得ているが、英語と数学で行っている習熟度別授業などきめ細かい指導の効果が現れている。</li> <li>・ 開かれた学校づくり、高校魅力化について、学校通信「宇霊羅」、ホームページ、NOTEなどをつかった情報発信や岩手日報などのメディアも活用している。</li> <li>・ 気づきプロジェクトでは、中学生と一緒に取り組んだり、小学校ではジオラマ防災教育など交流を深めている</li> <li>・ 高校説明会に出向き、岩泉高校の魅力を伝えてきた。岩泉町の中学3年生の50%、宮古地域から9名出願があった。</li> </ul> <p>(前川優)  3人目の子供が3月に卒業する。入ってよかったと言っている</p>

	<p>る。  (箱石大樹)  ・昔は、親とか先生以外に係わりを持つ人は少なかったが、今の高校生は、親や先生ではない人たちと多くのかかわりを持つようになった。このことが郷土愛につながっている。生徒にも地元にも良いサイクルで回っていると思う。</p> <p>重点目標 (ウ) (エ) について  ・次年度から、<math>\alpha</math>、<math>\beta</math>の2コース選択となる。  ・いじめについて積極的な認知や対応をしている。今年度のいじめ案件は3件であったが、解決した。  (金澤辰則)  ・知り合いの保護者から、「あまり勉強が得意ではない子供だったが、岩泉高校に入学して前向きに取り組んでいる」との声があった。  【Q】いじめの3件はこの規模の学校では多いのか？(佐々木修)  【A】感覚的に少ない方である。(校長)</p> <p>重点目標 (オ) (カ) について  ・コロナの制限が解除されたことで、活動が増え充実度が上昇した。  ・生活実態調査を考査後行い、適切な指導に努めている。  ・入学時に様々な学力の生徒が入学しているが、しっかりと卒業している。また、不登校経験があった生徒も高校では登校している。理由としては、きめ細かい対応など教員の思いが生徒に伝わっていると感じる。  佐藤幸一  【Q】小学校まで行って交流しようと思ったきっかけは？(佐藤幸一)  【A】小学校や地域との関わりが増えたことで何かできることはあるか？というやり取りがあったことが大きい。(副校長)  【Q】言葉使いについて気を使っているとは思いますが、何か研修とかをしているのか？  【A】そのような声掛けは行っている。(田村)</p>
(2) 令和7年度学校運営委員会について (阿部)	<p>・毎年3回行っているが、第2回(9~10月)については、KIZUKIなどの行事が多く、実際に来校してその都度ご意見をいただくことで、年2回にしたい。</p>
6 意見交換	<p>(佐々木修二)  ふるさとCMを引き続き協力お願いしたい。  【Q】今年度のCMは見るができるのか？  【A】見るができるので、この後掲載する。(高橋)</p>
7 その他	
8 閉会のことば (副校長)	<p>次回は R7 前半期に実施予定</p>